

吸入薬について

日に日に秋の気配が濃くなってきましたが、気温の変化から体調を崩していませんか？風邪をひいたあと咳だけがなかなか治らない時や、気管支喘息・COPD（慢性閉塞性肺疾患）の方は吸入薬を使うことがあります。今回はその吸入薬についてお話しさせていただきます。

-おくすりの話 vol.24-

薬剤部 橋 汐梨



特徴は？

吸入薬は薬を吸い込むことで、気管支や肺に直接薬を届けます。飲み薬よりも少量で速く効き、副作用も少ないのが特徴です。

成分は？

- ・ステロイド薬 炎症を抑える作用があります。
- ・ β_2 刺激薬 交感神経を刺激して気管支を広げる作用を持っています。長時間作用するものと短時間作用するものがあります。短時間作用するものは主に喘息発作の時に使います。
- ・抗コリン薬 副交感神経を抑えることで気管支が狭くなることを防ぎます。

吸入器の種類と特徴

ドライパウダー式の吸入器



- ・粉末状の薬を自分の吸う力で吸入するお薬です。吸う力が弱い人はセットされた1回分の薬を何回かに分けて吸うこともできます。
- ・キャップやカバーを開けるタイミングで1回分のお薬が吸入器にセットされるものもあるので、使用しないときはキャップやカバーが開かないように気を付けましょう。

エアゾール



- ・缶を押すことで1回分が噴出されます。噴出された薬を吸うため、咳がひどく上手く吸い込めない時でも吸入しやすいお薬です。
- ・噴出と吸入のタイミングをうまく合わせられない人のために補助器具もあるので、うまく吸入できない人は病院や薬局で相談してみましょう。

レスピマット



- ・霧状になったお薬がゆっくりと噴出されます。エアゾールのお薬で噴出と吸入のタイミングを上手に合わせられない人でも使いやすくなっています。
- ・ケースを回転させるとお薬がセットされますが、キャップを開けたまま回転させると回している間にお薬が少し漏れてしまうため、キャップは閉めたままセットしましょう。

吸入器の保管・お手入れ方法は？

キャップのあるものは吸入口の汚れを防ぐためにもきちんとキャップを閉めて、室温で保管しましょう。吸入口が汚れた場合は、薬と吸入器が分離できないものは乾燥した布などで拭いてください。エアゾールのものは薬と吸入器が分離できるので、噴霧を良好に保つためにも週に1回以上は吸入器を流水でよく洗い、十分に乾燥させてください。

吸入薬を使った後はうがいをしよう！

吸入薬を使った後は、目には見えなくても口の中にお薬が残っています。口の中にお薬が残っていると副作用がでやすくなるため、吸入薬を使った後はうがいをしましょう。特に、ステロイドが含まれているお薬では口の中にカビが生えてしまうことがあるため、必ずうがいをするようにしましょう。

もし吸入を忘れてしまったら？

気が付いた時点で、できるだけ早く吸入してください。ただし、吸入薬を持ち合わせていない場合、次に吸入する時間が近い場合などは1回分を飛ばして、次の分から普段通りの時間に吸入するようにしてください。



吸入薬は正しく吸入しないと十分な効果が期待できないお薬です。吸入薬や吸入方法に不安がある方は医師や薬剤師にご相談ください。